

キャリア形成支援を見据えた
初年次向け教育プログラムの実践研究

—大阪青山大学/大阪青山大学短期大学部 学習支援室の取り組み—

三木 慰子

A practical research on educational program for first-year taking into consideration the support of Carrier formation -Osaka Aoyama University/ Junior College Division of Osaka Aoyama University Learning Support Room Initiatives

Yasuko Miki

1. はじめに

大阪青山学園は 2019 年度、創立 52 年目を迎える小規模大学である。大阪のベッドタウンと言われている大阪府箕面市と兵庫県川西市に 2 つのキャンパスを有している。



開学当時から担任制を導入し、学生の一人ひとりに応じた丁寧な教育をモットーとしている。大学では健康栄養学部（健康栄養学科、子ども教育学科、看護学科）と短期大学部（調理製菓学科）において、保育士、幼稚園教諭、小学校教員、看護師、管理栄養士、調理師、製菓衛生

師などの職業人の養成をしている。大学と短期大学部の学生数は合わせて約 1000 名。「輝く未来へ繋がる教育」（タグライン）をめざし、「高い知性と学識と豊かな情操を兼ね備えた品位ある人材の育成」（建学の精神）をしている。

さて、本学の入学前においては、初年次生対象に 5 教科の e ラーニング、国語の一斉課題と学科別課題を提出させている。

入学後も、全学的に、そして、学科別に初年次向け教育プログラムが学生に提供されている。そして、筆者が室長を務めている学習支援室においても学習面を主としたサポートを定期的実施し、キャリア形成支援に繋げる仕掛け作りを行っている。

本稿では、2008年度から2019年度まで学習支援室で実践してきた教育プログラムの事例を通して、その教育的効果について考察する。

2. 学習支援室開室経緯

2008年10月、今から11年前、大学として組織的な学習支援体制を構築するために、学習支援室を設置した。

開設にあたり、より本学に適した学習支援室をとの願いから業務運営に反映させるために教員向けのアンケート調査をした。その結果、8つの項目(①学習相談 ②学習スキル指導 ③自習活動の支援 ④リメディアル教育 ⑤スチューデントアシスタントの育成 ⑥学生の学びを広げる活動 ⑦学生の自主性を育てるための活動 ⑧キャリア教育)中、①～③を中心に運営することとなった。

つまり、日々の学びを支えるサポートと幅広い学びのニーズに応えるサポートの2本柱を立てた。具体的には学習相談、アカデミックスキル向上支援、ポートフォリオ作成支援、ライフスキルセミナーなどを行ってきた。特にアカデミックスキル向上支援やポートフォリオ作成支援については各学科の特別時間を活用し、出前講座を提供してきた。



当時、学習支援室のラーニングコモンズ化、並びにライティングセンター化を将来構想としつつ、室長(大学教員)、大学教員1名、短大教員1名、学習支援担当教育職員(学習支援アドバイザー)1名のわずか4名のスタッフで始動した。と同時に、2年次以上の学生を学習支援アシスタント(Student Assistant: SA)として育成し、初年次の学生の相談役とした。なお、

SAの採用基準は次の通りである(「学習支援アシスタントに関する規程」)。

- ・当該前学期の学科内成績が上位20%以内で、在籍学科の学習支援室運営委員が推薦し、指導を受けられる学生
- ・アカデミックスキルに係る体系的な講義を受講し、「優」を取得した学生

2019年度では学習支援アドバイザー2名(発達障がい専門1名を含む)を常駐、各学科からの運営委員の教員をスタッフとして迎え、SAを合わせて総勢66名である。

運営委員には月2回、学習支援室としてのオフィスアワーを設けており、学生対応が行われている。そして、毎月、運営委員会で各学科間における情報を共有し、より手厚く初年次に対応できるようになっている。(注1)

室は40名余りの人員が入る学習支援室の他、グループ学習室、面談室と3つの部屋を有している。



多目的ルーム



グループ学習室



面談室

さて、本題である、学習支援室における初年次教育プログラムについてである。他大学の学習支援に関わる部署での初年次向けサポートとしては、例えば、国語・英語・数学の基礎学力向上や土曜日のリメディアル授業や文章作成の講座を開いている大学（大阪学院大学 学習支援室）、また、1週間の学修支援・相談の時間割がしっかり組まれ、学生が空き時間を利用して大学教育センターを利用できるようにしている大学（福山大学）など、初年次教育プログラムが各大学で創意工夫されていることがわかる。(注2)

そこで、本学の取り組みをご報告しながら皆様からご指導賜りたいと

思う。学習支援室の初年次教育プログラムの柱は教養ミニ講座である。講座は2種類ある。1つは運営委員によるものであり、他1つはSAやゲスト学生によるものである。

①運営委員による講座



開室当時は「出張講座」と銘打ち、レポートの取り組み方やポートフォリオを作って学びを深めようというものを学習支援アドバイザーが講師となり、開講していた。2012年度には、学生には専門科目以外の多くの教養を身につけてもらいたいとの願いから教養ミニ講座が開講された。講師は学習支援室の

スタッフである。講座の時間帯は主として、ランチタイムである12時20分から30分間に行われた。講座例は次の通りである。

「新茶を味わう」「心とからだのほぐれる手遊び」「友達・恋人、家族とケンカしない方法」「お礼状の書き方と添削」(左上写真)

「手帳の効用」「自分の体を知ろう～健康と運動～」

「しあわせな人間関係を築こう」「習慣の作り方」「自分の体を知ろう～健康と食～」

いずれも10名足らずの受講生数であり、講座や学習支援室の認知度を高める工夫が課題であった。

②SAやゲスト学生による講座

2012年度から運営委員とともに、SAやゲスト学生も講座を開講することとなった。開講された講座はわずか2つであった。

「お弁当講座」(健康栄養学科3年次生のSA)

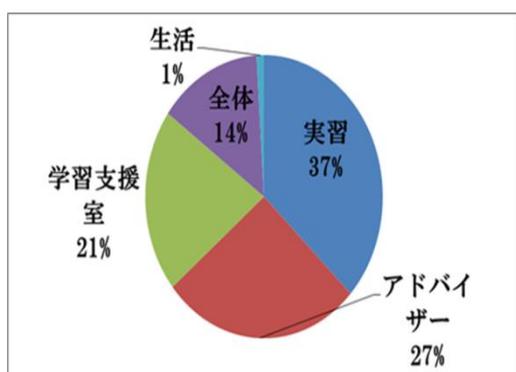
「ちょいトレ英会話」(健康こども学科2年次生ゲスト学生)

しかしながら、教養ミニ講座に関しては受講生確保の難しさが課題になっている。

そこで、2013年度、講座の活性化のために本学の特性を改めて振り返って見たところ、次の3項目が浮上した。

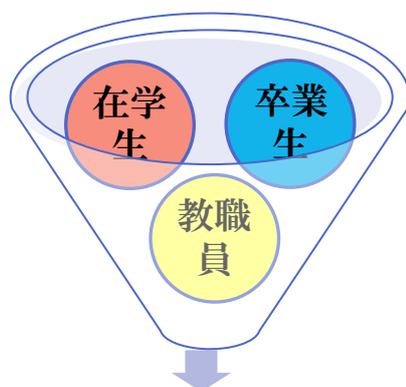
- *資格免許取得の科目が多く、ほとんどの時間割が決められがち
- *授業においてはクラスごとが多く、他学科、他学年との交流ができない
- *サークル活動でもしない限り、先輩からの情報網は遮断される傾向にある

課題の解決策の一つとして、実験的に筆者の幼児教育学科の初年次対象の授業で“青山コミュニティ”という場を設定し、異文化体験（年代の違う人や先輩との会話）を学習支援アドバイザーとSAという立場の違う人とのコミュニケーションをとる機会を作った。



コミュニティを終えて、学生の感想をキーワード別にまとめると、9月に実施される「幼稚園実習のことを聞いてよかった」というのが一番多く、次いで「アドバイザーの仕事内容が理解できた」、「学習支援室に関する利用方法がわかった」というものであった。

この授業とのコラボレーションで気づいたことがある。それは学習支援室という場所を知れば、そこに来てもらうことで、学科学年の枠を超えた先輩との関わりができ、学習支援室のスタッフにも相談ができる。ということは、講座に社会で活躍する卒業生を招いても後輩学生の学びは生まれることが予想できよう。



学びの連鎖(青山コミュニティの誕生)

2013年度から、授業での試みを発展させる意味で学習支援室の教養ミニ講座として“青山コミュニティ”を誕生させるに至った。これが室独自の取り組みである。

これより、学習支援室ではいっそう初年次向けの講座に重きをおき、1年後の自分、2年後、3年後といったように、講座を通して将来の自分を見据えることができる、いわゆるキャリア形成支援に繋がる初年次教育

に寄与しているといえよう。

では、実際にどのようなプログラムがあるのか、次に進む。2018年度における講座数は年間にとすると4学科で39近くに及んでいる。表のピンク色の講座が初年次向けのものである。

講座の内容については、以下の通りである。

初年次対象の全学科共通に開催される講座は（表中、ピンクマーク）「先輩からのアドバイス」「試験前！先輩教えてください」「卒業生からのアドバイス」「苦手科目克服講座」「お菓子&交流会」。

短期大学部のみ行われる初年次対象の講座は「インターンシップ報告会」「2年次に向けての相談会」「気軽に楽しくトーク・トーク」などである。

それ以外は全学科対象（表中、グリーンマーク）の「学習支援室カフェ」「クリスマス」、全学年対象（表中、マークなし）「卒業生から伝えたいこと」、看護学科4年次以外の学年対象の「4年次生とのトーク・トーク」がある。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	3月
健康栄養学科		先輩からのアドバイス 66名	試験前！ 先輩、教えてください 18名				学習支援室カフェ	国試対策勉強会 鳥田先生による 糖代謝中心の講座 12名	お菓子&交流会 18名		
		楽しく気軽に トーク・トーク 英語克服コミュニティ 0名	卒業生から先輩に 伝えたいこと 11名						クリスマス講座		
子ども教育学科		先輩からの アドバイス 99名		試験前！ 先輩、教えてください 19名			学習支援室カフェ	交流会 Pの先輩と話そう！ 28名	教授対策のお話 (ゲスト学生・菅川先生 からアドバイス) 27名	交流会 Pの先輩と話そう！ その2 8名	
		楽しく気軽に トーク・トーク 英語克服コミュニティ 46名						卒業生(小学校)から 先輩へ伝えたいこと 27名	クリスマス講座		
看護学科	4年次SAとの トーク・トーク 臨地実習体験談 39名	先輩からの アドバイス 109名	楽しく気軽に トーク・トーク 苦手科目 克服コミュニティ 51名		4年次SAとの トーク・トークその2 保健師実習体験談 (3年次対象)5名		4年次SAとの トーク・トークその3 保健師実習体験談 (2年次対象)12名	お菓子パーティ& 交流会 9名	クリスマス講座		4年次SAとの トーク・トークその4 国試体験談 (3年次対象)22名
		楽しく気軽に トーク・トーク 英語克服コミュニティ 46名	試験前！ 先輩、教えてください 13名				学習支援室カフェ				4年次SAとの トーク・トークその4 国試体験談 (2,3年次対象)15名
調理製菓学科 (調理)		先輩からの アドバイス 32名	卒業生から先輩に 伝えたいこと 51名	試験前！ 先輩、教えてください 29名		インターンシップ 報告会 33名	学習支援室カフェ	クラス分け、カフェor 技術どちらにする？ (後日相談日あり) 33名	2年次に向けての 準備相談会(後日 個別相談対応日あり) 37名		
									トーク・トーク (進路&三木授業) 47名		
調理製菓学科 (製菓)		先輩からの アドバイス 30名	卒業生から先輩に 伝えたいこと 28名	試験前！ 先輩、教えてください 31名		インターンシップ 報告会 31名	学習支援室カフェ	2年次に向けての相談会 (就活体験談) 31名	なんでも相談会 (卒研・就活・国試 ・大量調理等) 31名		
									トーク・トーク (進路&三木授業) 47名		
									クリスマス講座		

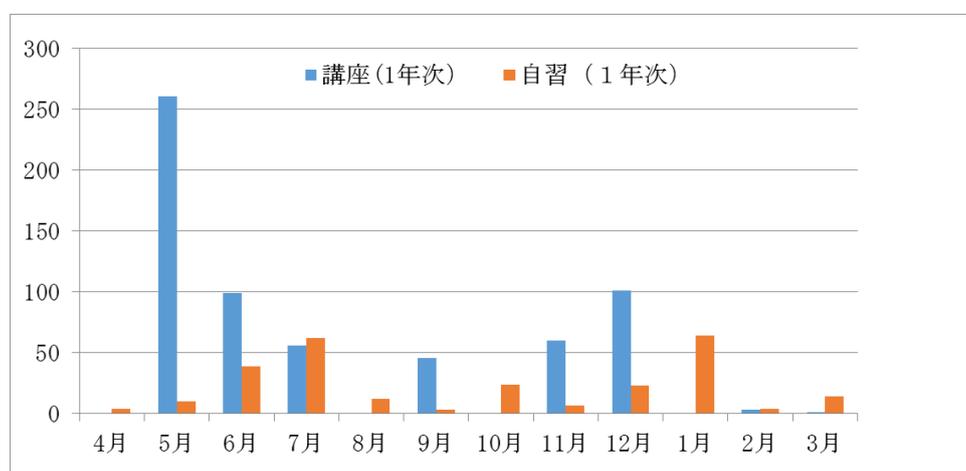
これらのほとんどは SA 主体の講座であり、打ち合わせから本番まで、その指導には室長、学習支援アドバイザー、運営委員があたっている。

2018 年度行われた 39 講座中 28 講座は初年次向けのものであり、全体の 72%にあたる。そこで、これより、初年次向け講座の 1 回目に当たる「先輩からのアドバイス」と「トーク・トーク」の 2 種類の講座を取り上げ、その教育的効果をさらに考察することにする。

「先輩からのアドバイス」の講座は、初年次生が最初につまずきやすい 5 月の連休明けにスタートする。学習支援室の紹介も兼ねているので、ほぼ全員が出席する。ここでは SA が 1 年間の学生生活のあらましをパワーポイントにして説明し、昼休みの 30 分間、テーブルごとに食事をしながら初年次生のさまざまな相談にのる。初年次生は先輩と話をしたこと、その後、どのような変化が起こってくるのか。

2 つの方面から検討をする。一つは初年次の 1 年間における学習支援室利用者数の変化であり、もう一つはアンケート調査からみる初年次生の心象部分の分析である。

2018 年度における初年次生の学習支援室利用者数を次にグラフ化してみた。



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座(1年次)	0	261	99	56	0	46	0	60	101	0	3	1	627
自習(1年次)	4	10	39	62	12	3	24	7	23	64	4	14	266
自習(全体数)	230	305	224	366	111	96	351	326	255	256	43	27	2590
講座受講者数	38	352	183	76	5	56	10	149	186	8	19	12	1094
利用者数	631	864	561	659	128	298	663	631	539	436	109	88	5607

1年間の室利用者総数は5607名、そのうち初年次生は890名で全体の16%に当たる。その数はそれほど多くはない。

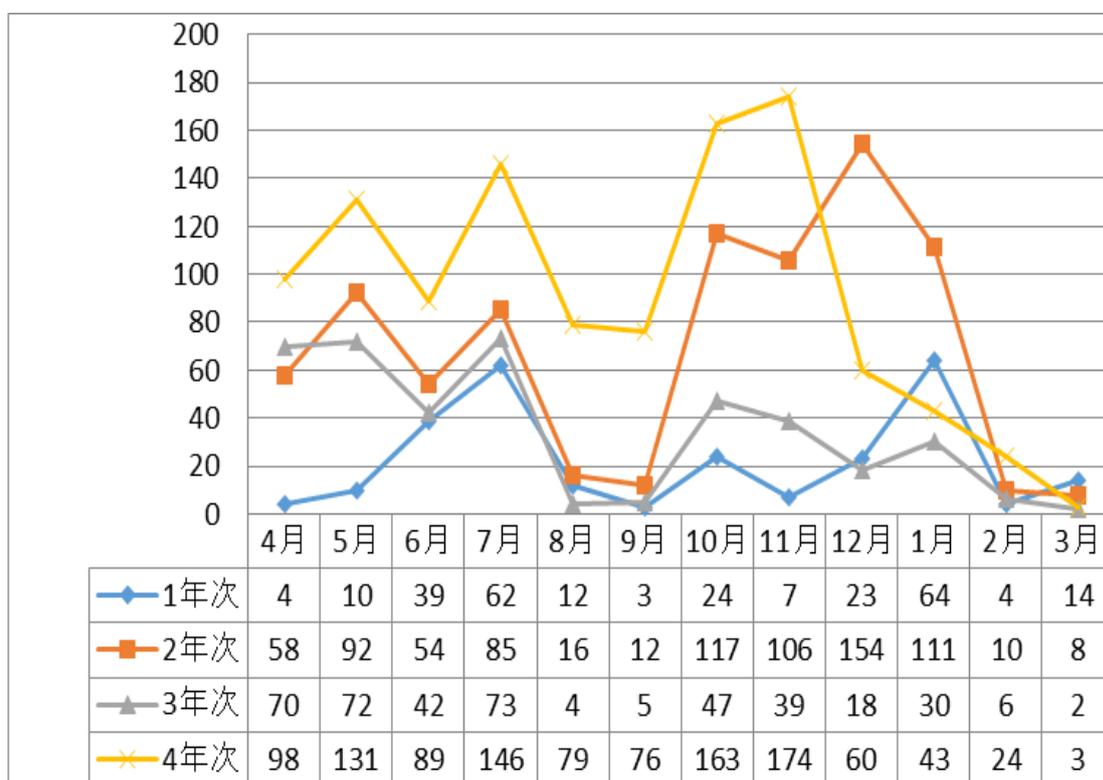
また、月別の利用を見ると、講座（ブルーの棒グラフ）に関して、5月が年間を通して一番高い数値が出ている。その後、6、7月や11、12月に定期試験前の講座、9月はインターンシップの講座を行い、利用者は多くなっている。

前頁の自習利用者数においては、オレンジの棒グラフで7月・1月といった定期試験前の時期に利用者が増加していることがわかる。つまり、前期後期の講座後に室の利用者数が増加していると捉えることができる。

参考までに学年別の年間を通しての自習利用者状況を下のグラフにしてみた。初年次生に向けた取り組みが功を奏し、学年を重ねるごとに室利用者数増加に繋がっていると考えることができる。

学習面での支援スタッフが常駐しているのは学習支援室だけであり、初年次で学習支援室と頼りになる先輩の存在を知ってもらうことは大きな意味がある。

また、学習支援ニーズが高い学生だけでなく、学びのニーズが高いことや飲食コミュニケーションが可能なため、学生は図書館とは異なった



利用の仕方をしながら、室を有効活用している。(注3)

月別でいえば、7月や1月といった定期試験前の利用者は多く、5月・10月といった学期初めの時期も高い数値が見られる。

特に2018年度においては4年次の利用者には国家試験対策のための勉強をグループで行っている人がいたり、毎日のように終日学習支援室で個人的に勉強している学生が数名いたのが大きな特徴ともいえる。

次に、2018年度、講座後に初年次生272名を対象にアンケート調査を行った。記入漏れなどの回答不備を除いた244名(昨年:252名)のデータの結果は次頁の通りである。

講座の満足感に関して「1.よかった」から「5.悪かった」の5件法で、現在の学習に関する不安感では「1.大変不安」から「5.不安はない」の5件法で回答をそれぞれ求めた。

1年次対象のアンケート調査			
5月に行いました学習支援室の教養ミニ講座“青山コミュニティ”は如何でしたか。今後の講座の参考にしたいと思っていますので、以下のアンケートにお答えください。			
			性別(男・女)
1 以下の質問に当てはまるものに○をつけてください。			
① 5月の先輩からのアドバイスの講座の満足度			
(1 よかった 2 ややよかった 3 どちらでもない 4 あまりよくなかった 5 悪かった)			
② ①で「あまりよくなかった」「悪かった」と答えた方は改善すべき点をお書きください。			
[]			
③ 現在の学習に対する不安感			
(1 大変不安 2 やや不安 3 どちらでもない 4 あまり不安はない 5 不安はない)			
2 前期試験前には再度、先輩からのアドバイスの講座を開きますが、それまでの間に以下の講座の開講を考えています。興味の有無を教えてください。			
	講座名	内容	興味有無
楽しく、気軽に トーク・トーク!!	“講義ノート”コミュニティ	先輩の講義ノートを展示しています。ノート作りを見れば、勉強のやり方もわかります。室にはノートの持ち主もスタンバイしています。(調理・製菓などの実習ノートを含む)	有 無
	(英語)克服のためのコミュニティ	実際に苦手な(英語)を克服した人の体験談を聞いたり、(英語)担当教員からのアドバイスを受けてみませんか。()には苦手な科目が入ります	有 無
3 学習支援室の講座でやってもらいたいことなどがあれば、意見をお書きください。			
[]			
ご協力ありがとうございました。ご利用をお待ちしています。 学習支援室			

その結果、初年次生からは講座の満足度は高く、勉強への不安もあること、さらに自由記述欄に希望する講座の要望も見られたため、初年次

生に向けた講座は有益なものであったことがわかる。

なお、2018年度の数値も掲げておく。(全体平均は2.02のため、学習の不安感は2018年度の方が数値上はやや高いということになっている。そして、講座の満足度は2018度の方がやや高いという結果になった)
(注4)

1年次生対象5月の講座後 アンケート調査(2019年度6月)				1年次生対象5月の講座後 アンケート調査(2018年度6月)			
	講座の 満足感	学習への 不安感	人数		講座 満足感	学習への 不安感	人数
健康栄養学科	1.54	1.89	76	健康栄養学科	1.98	1.79	57
子ども教育学科	1.95	2.41	70	子ども教育学科	1.52	2.18	66
看護学科	1.42	1.78	70	看護学科	1.49	1.95	81
調理製菓学科	1.64	2.75	28	調理製菓学科	1.19	2.21	48
全体	1.60	2.11	244	全体	1.55	2.02	252

2018年度、初めての講座としては、看護学科の実習前講座を学生の要望により実施した。看護学科は2017年度に1期の卒業生を出したばかりの学科のため、それぞれの学年の学びを次の学年にどのように繋げていけばいいのか、学科と連動しながら慎重に講座の企画を考えた。

次に「気軽に楽しくトーク・トーク!!」からの考察である。2016年度から学生のコミュニケーション能力向上やキャリア形成支援の一助に、学内で働く人に話を聞く「気軽に楽しくトーク・トーク!!」という講座を行っている。

この講座に関しては、SA研修の個別面談に使用したり、また、筆者の授業である日本語Iや文章表現法とコラボしたりしている。つまり、学内で働く人と話をすることで、仕事への理解を深めたり、異年齢の人とのコミュニケーション能力を確認することが可能となる。

毎年恒例になっているが、短期大学の初年次生が学習支援室や進路支援センターの職員とコミュニティをしている。

講座後回収したアンケート用紙の感想欄には「良い機会だった」「色々なことが聞けた」「役に立った」といった講座を評価するものは全体の59%あった。さらに「活用したい」「今後の事を考える必要を感じた」「頑

張りたい」といった将来を見据えた展望は全体の31%に及んだ。この講座により、2年次の就職活動のための意識付け、および、センターや室利用をスムーズに行えるものに繋がっている。

項目	調理製菓学科(44名)	人数
感想	良い機会だった	12
	色んなことが聞けた	11
	役だった(社会人との交流)	6
	楽しかった	1
展望	活用したい	5
	今後の事(目標)を考える必要を感じた	4
	頑張りたい	4
	相談にいきます	1
	今後の心構えができた	1
その他	スムーズに質問できた	3
	質問を考えるべきだった	1
合計	(1名は無記 複数回答有)	49

なお、教養ミニ講座の教育的効果として、特別なニーズのある学生支援に繋がることを最後に附言しておく。

特に初年次生の学生が講座などで学習支援室を訪れた時、スタッフは彼らの様子を見守り、気になる学生を見出すことがある。いわゆる見守り支援や掘り起し支援を行なうことで、学生の様子に応じた支援を段階的に行うことができる。特に支援ニーズが高い学生に

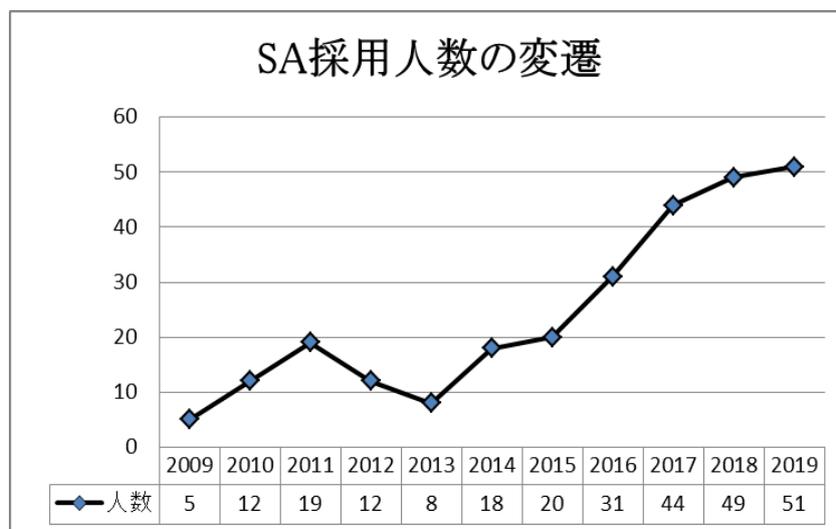
関しては早期支援が休学・退学などの予防に繋がる。そのため、特に前期期間においての講座の参加者の情報収集は大変重要となる。初年次の5月あたりから担任やチューターは個別面談を始め、学習面での困りごとなどを持つ学生を伴い、学習支援室を活用する。

学習支援アドバイザーは学習面の困りごとの背景に発達障がいなどの課題がある場合は個別面談をし、アセスメントを行う一方で、学生の特性に応じた学習支援に繋げていく。内容によっては障害学生支援委員会や担当者会議をし、キャリア形成にまで及ぶ学生支援を行なう。

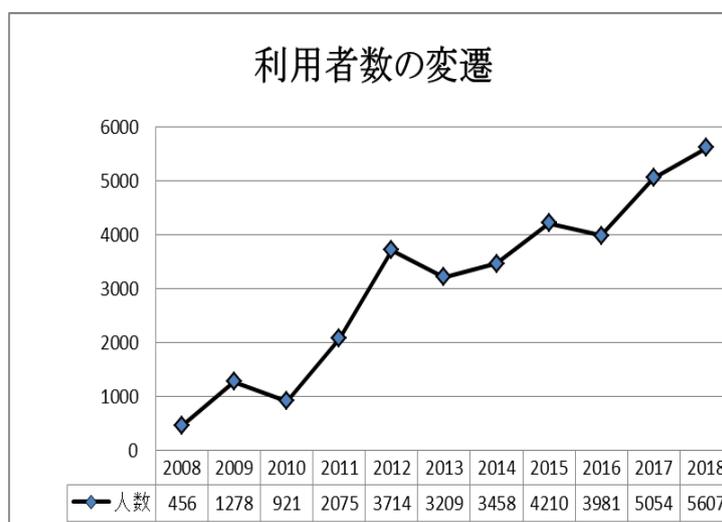


11年間の学習支援室における初年次教育プログラムの活動の担い手はSAにあり、採用人数は年々増加していることは次頁のグラフからわか

る。



SA の特性を生かした活動ができるよう、2019 年度からは特に個別面談を取り入れて、育成の強化を図っている。SA 活動が活発化し、彼らの成長を促し教育的効果を生み出している。そのことは、室の利用者数の増加からも評価できる。



以上、学習支援室における初年次向け教育プログラムは初年次生の大学生活を円滑なものにし、大学での学びをより助長するスパイス的要素を含んでいる。そして、彼らの資質向上に寄与し、キャリア形成支援に繋がるものであると考える。

今後は大阪青山学びプロジェクトを発足させ、学びについて議論を深め、教育プログラムの充実を図りたいと思う。

注記

注 1 大学HPには運営委員の紹介を掲載し、支援科目などを明記することで学習支援がスムーズに進められるよう配慮している。

注 2 大阪学院大学 学習支援室

https://www.osaka-gu.ac.jp/support/support_lounge/index.html

福山大学 大学教育センター

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/edu/edu-center/study-support.html>

注 3 学年別にみると、利用者数は4年次・2年次・3年次・1年次といった具合に順位がつけられる。3年次よりも2年次の利用者数が多いのは短期大学の2年次が卒業研究や試験前に利用する率が高いためであると考えられる。

注 4 なお、2018年度はアンケート調査において、初年次生からの意見を反映させ、教養ミニ講座の「楽しく、気軽にトーク・トーク」の中で「苦手科目」にターゲットを当て、英語の克服講座や看護学科の専門科目（解剖生理学、看護学概論など）に特化した講座を開講する運びとなり、2019年度も英語の克服講座は5月の中旬に行った。

講義ノートコミュニティは克服講座や試験前講座に吸収されるため、独立しての開講はなかった。

補記：①2019年9月8日、初年次教育学会第12回大会（創価大学）にて研究発表「キャリア形成支援を見据えた初年次向け教育プログラムの実践研究－大阪青山大学/大阪青山大学短期大学部 学習支援室の取り組み－」を行った。本稿はその時の原稿に2019年度末に加筆修正をしたものである。

なお、本学は2019年度の入学生を最後に短期大学の学生募集の停止をした。短期大学の研究紀要の最終号に学習支援室における短期大学の活動記録の一報告になれば幸いである。

②2020年度より学習支援室は名称変更を行い、リテラシーサポートセンターになった。筆者は運営委員の形で大阪青山学びプロジェクトの担当を継続している。ところが、コロナ禍の現状にあり在学学生スタッフが企画しているプロジェクトを実行することは困難を極めている。そのため、規模を縮小化し、卒業生を講師としてのZOOM講座などを行った。

③論文執筆に際して、お世話になった、当時の学習支援室の学習支援アドバイザーである榎本義文氏、鈴江秀一朗氏、事務担当の藤田朋子氏に感謝する。

また、巻頭の大学の航空写真については、理事長の眞下利晴氏より掲載許可を得た。ご協力いただいたことを感謝する。